

移住者のパワーをいすみの農業に活用する！

～NPO法人と連携した移住者等による援農システムの構築を目指して～

夷隅農業事務所改良普及課 令和3年9月24日発

夷隅管内は担い手不足が深刻であり、基幹品目の水稻は大規模化が進む一方、農地集積のペースに労力が間に合わず作業に追われるケースがみられます。

そこで新たな農業の担い手として、移住の多い背景を生かして、移住者と農業のマッチングを模索しました。移住者の定住支援等を手がける「NPO 法人いすみライフスタイル研究所」（高原和江理事長、いすみ市）との連携を提案したところ、水稻大規模経営の草刈り作業や、女性農業者の重労働援農のマッチングが実現しました。作業技術の個人間差があるなど課題も見えましたが、労力不足に悩む農業者の助けになりました。

NPO には移住者や大学生等約 30 名が登録され、連絡調整や給料支払い等のシステムは既に確立されています。これまで様々な作業を受託していますが、農業者と連携した取組は初めてです。農業事務所は労力不足解消の一助として、この取組の普及を図ります。



作業が間に合わない大規模水稻経営の草刈り作業を請け負いました。



女性農業者では重労働であるいちご培土の入替作業も扱いました。